

第8回アジア防災閣僚級会議の報告



ASIAN MINISTERIAL CONFERENCE
ON DISASTER RISK REDUCTION

03-06 JULY 2018
ULAANBAATAR, MONGOLIA

「日本とアジアの多様性・ジェンダー
視点に立った防災ガイドライン」
平成30年度「男女共同参画フォーラム」
@NWECC

2018年8月30日

JWNDRR運営委員・国際航業(株)コンサルタント
野々口敦子

1. アジア防災閣僚級会議

UNISDR（国連国際防災戦略事務局）が主催し、アジア各国の防災担当の閣僚級が、2年毎に集って開催される、防災をテーマとした閣僚級会議

- 第8回AMCDRR開催地：モンゴル国・ウランバートル
- 開催期間：2018年7月3日(火)～5日(木)
- 参加国・参加団体・参加者数：50か国、1,500団体、3,000人
- 目的：仙台防災枠組(2015－2030)の実施に向けたアジア地域実施計画（行動計画2018－2020）を策定

JWNDRRからの参加者：田中由美子、石渡幹夫、小林花、野々口敦子の4名、またJCC-DRRからは大橋正明氏、小美野剛氏が参加



2. ジェンダー・ステークホルダー・グループについて

- GSHGは、Duryog Nivaran（ラモナ氏が代表）が調整役を務めている
- Duryog Nivaranは、スリランカを含む南アジア8か国がメンバー
- GSHGのメンバーは、関係政府機関、二国間援助機関（JICA等）、国際機関（UNISDR, UN Women, Red Cross等）、地域IASCのワーキンググループ、INGO（Oxfam, adpc, christian aid等）

3. 第8回AMCDRRの日程（1）

日時		JWNDRRが参加・企画したイベント	JWNDRRからの出席者
7月3日	午前	ジェンダー・ステークホルダー・グループ（GSHG）のコンサルテーション（前回会議からの進捗確認と成果文書へのインプット確認）	田中、石渡が出席、JWNDRR/JICAの活動を報告
	午後	開会式	田中、石渡
7月4日	午前	マーケットプレイスでJWNDRRの資料・報告書の展示を開始	小林
		ジェンダー・テーマ・セッション：GSHG主催	全員出席、田中がフロアからコメント発表
	午後	JICA/JWNDRRサイドイベントの事前打ち合わせ	パネリスト全員(田中、石渡、野々口)



3. 第8回AMCDRRの日程（2）

日時		JWNDRRが参加・企画したイベント	JWNDRRからの出席者
7月5日	午前	イグナイト・ステージ	田中、石渡が事例を発表（全員出席）
		オフィシャル・ステートメントの発表	田中がJWNDRRのステートメントを発表（全員出席）
	午後	JWNDRR/JICA共催：災害復興・DRRにおける女性のエージェンシー・リーダーシップに関するサイドイベント（約40名の参加者）	ネパール復興庁事務次官、インドネシアNGO職員、田中、石渡、野々口が事例を発表（全員出席）
		UN Women主催の災害復興プロセスにおけるジェンダー分析の有益なツールに関するサイドイベント	小林がゲームを発表（全員出席）



4. 採択文書

ウランバートル宣言（28の文章から構成）

- ◆DRRのために、権利に基づく、人々を中心とする、すべての社会を包摂するアプローチを提唱
- ◆DRRの政策、計画、事業を実施していくためには女性の全面的で平等な参画が不可欠であり、法的枠組の整備と適切な資源（予算・人材）の確保が必要であるとしている。

行動計画（2018－2020）（仙台枠組実施に向けたアジア地域の実施計画）

- ◆DRRのためにはジェンダー主流化の促進が必要であり、意思決定過程への女性の全面的かつ平等な参画の重要性が提唱

6. 今後の課題

- ◆ジェンダーや社会包摂について、行動計画に記載されたことは大きな前進であるが、具体的にどのように実現するかは明記されていない。
- ◆GSHGが、今後も、行動計画の促進、調整、モニタリング・評価について中心的な役割を果たしていくことが期待される。
- ◆JWNDRRは、2014年以来、GSHGと綿密に連携し、行動計画などにジェンダー・多様性の視点が統合されるように働きかけてきた。
- ◆GSHGは、2016年にはすでに**ガイダンス・ノート**を作成しており、多様な組織で構成されているGSHGの活性化が、今後の行動計画の具体的な実施、目標達成に大きく貢献すると考える。

8. GSHGのガイダンス・ノート

◆仙台枠組の優先課題の実施（地方、国家、地域レベル）に向けた行動計画（2017－2018）において、ジェンダー・多様性の課題を組み込むために、「何を」「誰が」「どのように」おこなうべきかを提示

仙台枠組の優先	何を	どの機関が	どのようにおこなうか
1. 災害リスクの理解	—	例) 地方レベル： 防災委員会、地方政府、 CBO/NGO	例) 地方レベル：ジェンダー別等のデータ収集を行うための方法・ツールの開発
2. リスクのガバナンス強化	女性の参画・リーダーシップの強化を組み込んだDRR関連法・枠組・計画の強化	例) 国家レベル： 国家防災委員会、女性省、国家レベルの女性組織	例) 国家レベル：対象となる組織を特定し、女性の意思決定への参画を増やすためのインセンティブを供与
3. 災害リスク削減への投資	公共・民間投資（非・構造物）にジェンダー・社会包括視点の組み込みを確保	例) 地方レベル： 防災委員会、地方政府、 CBO/NGO	例) 地方レベル：女性をエンパワーし持続性のある生計の特定、資源、研修、技術、インフラ等を提供
4. より良い復興のための備え	ジェンダー・リスポンシブな災害への備え、対応、復興	例) 国家レベル： 国家防災委員会、女性省、国家レベルの女性組織	例) 国家レベル：早期警報等の備えの計画段階に、女性や多様なグループが持つスキル・能力を活用するメカニズムの導入

8. 国際会議への参加の意義と活用法

参加の意義

- ◆GSHGのメンバーや関係する団体とネットワーク強化が図れ、グループから政策提言をおこなえる。
- ◆サイドイベントで活動事例を発表したり、報告書や資料を展示・配布することにより、JWDRRの活動を広く広報することができる。

活用法

- ◆セミナーや研修等でパネリストとして招待する。
- ◆共同で調査研究等を実施する。

9. 今後の予定

◆2019年5月13日～19日

ジュネーブでDRRのためのグローバルプラットフォームの開催

◆2020年

オーストラリア・シドニーで第9回AMCDRR開催